

長野県公連協だより

第146号

発行所
長野県公民館運営協議会
長野市若里1-1-4
県立長野図書館内
電話・FAX
(026) 217-6256

一年間ありがとうございました



令和二年度が
終了しようとしています。

コロナ禍に翻

弄され、不安とためらいに包まれ押しつぶされそうになりながら、決断を常に求められる一年間でした。「こんな時だからこそ、できることを」の想いで取り組んでいたいただきました。

「集い・学ぶ・結ぶ」ことが許されない中で、深い思慮と創意工夫を持って立ち向かっていただきました。

県公民館大会を岡谷市で、館長研修会を伊那市で、主事研修会を県生涯学習推進センターで、公民館報関係者研修会を木曽町で、開催していただきました。

第六十八回長野県公民館大会は、諏訪地方公民館連絡協議会の主管で、九月二十四日（木）にカノラホールを主会場に、ズームによるオンライン参加、午後開催という形で行われました。テーマ「各々が置かれている状況をしっかりと認識し、公民館のこれからを展望しよう」の基、講師の原義彦先生にもりモートで講演していただき、分散会は、四グループに分かれていました。

「自分たちの地域は、自分たちでつくる」の想いのもと、不断の努力と創意工夫で進んでいかれることを願っています。

県公連協だより

会長 塩澤哲夫

長野県公民館運営協議会

会長 塩澤哲夫

人事異動で十数年ぶりに公民館勤務となり、輪番制で東信地区の主事会幹事長、主事会研修会の当番ブロックと……尽くしの一年のスタート。

主事研修会についても、当初は、北佐久郡御代田町にある「まなびの館エコールみよた」で開催予定でしたが、新型コロナウイルスにより、延期されました。

開催の可否も検討されましたが、昨年まで二日間開催していたものを一日に規模縮小し、日程変更を行い、会場も県の施設

「長野県生涯学習推進センター」を借用しての開催となりました。

感染警戒レベルも変

各地区からオンラインで参加する
オフラインの環境が整っている
ことだと思いました。

主事研修会を終えて

佐久穂町公民館
主事 佐々木 学



化する中、主事会幹事会でも話し合った結果、今、出来ることをやろうと強い気持ちで開催に至りました。

地域や性別・職場の経験年数などは関係なく各地区の主事の皆さんが集った研修会は、有意義な時間となりました。

当日、お手伝いをいただいた皆様、ありがとうございました。

来年度の研修会も、主事同士の夜の情報交換は有益なものであります。残念ながらコロナウイルス感染症予防の観点から中止となりました。飲みにケーションがでる社会が待ち遠しい今日です。

長野県公民館報関係者 研修会の開催にあたり

木曾町三岳公民館

主事 斎藤 岳久

令和二年度の公民館報関係者研修会が一月三十日（土）に開催されました。

本来六月二十日に木曾町の文化交流センターにて開催する予定でしたが、新型コロナにより緊急事態宣言が発令され延期となり、七

月の役員会にて一月三十日に行うこと、時間を短縮すること、大人数が集まらないようにすること、食事は個別で対応することと内容を変更し、午前中の講演会は行わず分科会のみとすることとして、調整・募集を行いました。しかし年末になり全国的に感染者が増え、県内でも医療非常事態宣言が発令、中信地区においても感染レベルが高い地域があることから、急速一週間前にオンラインでの開催と変更しました。

オンラインでの開催となり、分科会の内容も変更せざるをえなく、お願いしていた講師の方々には大変申し訳ありませんがお断りすることになってしまいました。

元々実践的な分科会を行う予定



でしたので、オンラインでは難しく、十人程度の分散会としてグループごとで各公民館報の様子を教えてもらうといった内容としました。急遽変更となり、どれくらい参加があるか不安でしたが、二十三の公民館に参加してもらい、またそれだけで数人が画面の向こうにいるといった様子で、なんとか開催することが出来ました。

分散会の内容は、館報の編集を担当する人、発行する回数、内容など公民館ごとそれが違い、他地域の館報の実状を知る事ができ、研修として面白かったのではないかと思いました。

館報研修としては少し内容が浅くなってしまったかもしません

が、コロナ禍でもやれることをやる、時代の変化に合わせて行うことが今後の公民館事業においても重要な事となり、参考になつたこともあつたのではないでしょうから、無事とは言えませんが、開催できたことに安堵しました。

参加していただいた公民館、また分科会の準備をしていただいた方々、当日分散会で司会や記録をしていただいたみなさんに感謝致します。ありがとうございました。

令和2年度 公運協だより編集委員会

ブロック	氏名	所属公民館
委員長	山田伸晃	長野市浅川公民館係長
東信	小松祐基	東御市公民館主事
中信	堀口裕加里	上松町公民館主事
南信	瀧澤翔	天龍村公民館主事
北信	丸山あすか	千曲市埴生公民館主事

令和2年度 全国公民館連合会表彰受賞者（県関係）

優良職員表彰		
橋井弘治	前大町市大町公民館長	
永年勤続職員表彰		
木下大輔	前王滝村公民館主事	

令和2年度第73回優良公民館 文部科学大臣表彰（県関係）

小諸市公民館

**リレー
コラム**

「長野県らしい
公民館とは?」
⑬

これから目指す

一つのこと

南木曽町公民館

館長 岡本智治

南木曽町では令和三年二月、ついに人口が四千人を切ってしまいました。少子高齢化が進むこの現象は南木曽町に限ったことではなく、木曽郡六町村においても深刻な状況です。

そんな状況の中でも、皆様が元気になるような活動ができないかを、二つ考えてみました。

一つ目は「読書でつなぐ木曽の仲間」二つ目は「大人の遠足」です。

南木曽町では本年度から「読後の感想」という形で読んだ本の感想を書いてもらい、館内掲示と紹介を行っています。この仕組みを木曽郡内に広めて本の紹介をしていきたいと思っています。また、読書会を開いて読書の輪を広げていきたいと考えています。

木曽町の図書館に

『木曽はひとつ』という書道家『金沢翔子』さんの書いた揮毫があります。

人口減少・少子高齢化・コロナウイルスに負けない活動を、木曽郡内の公民館を中心となり、手を取り合い一丸となつて、郡内の皆様が、明るく楽しく元気に暮らせる社会を目指していきたいと思います。



曾郡内の六公民館と連携し、お互いの観光名所や知る人ぞ知る穴場などを紹介し合い、他地区の観光スポットを、その地区の方にガイドしてもらうという構想です。

「月見」をテーマに姨捨の棚田、長楽寺境内と歌碑群、武水別神社、神主松田家館跡、姨捨駅の駅舎など二十九の文化財が三つのストーリーを構成しています。

毎年師走になると八幡の武水別神社で新嘗祭「大頭祭」が十二月十日～十四日まで五日間行われます。昭和六十一年には、国の選択無形民俗文化財に指定され、記録には一五九二年（文禄元年）から百年以上の歴史があるということです。半世紀以上も昔、子どもだった頃このお祭りを「お練り」と呼んで毎年楽しみにしていました。

境内は勿論、練り祭り（頭人行列）の沿道には出店や露店が並び、それはそれは賑やかなものでした。

姉捨の棚田がつくる摩訶不思議な月景色「田毎の月」が日本遺産に認定されました。

「月見」をテーマに姨捨の棚田、長楽寺境内と歌碑群、武水別神社、神主松田家館跡、姨捨駅の駅舎など二十九の文化財が三つのストーリーを構成しています。

また神社境内の一画に平成三十一年十月、甲越八幡の戦い記念碑を建てた会をはじめ多くの皆様の支援により「川中島の戦い初戦の地八幡」の記念碑が建立されています。天文二十二年（一五五三年）坂城の村上義清が甲斐の武田信玄に追われ、越後の上杉謙信に救援をおいで、四月二十二日（新暦六月三日）八幡の地において両軍が衝突した戦いを指すものです。

神社を訪れた時にはぜひ当時に想いをはせて記念碑をご覧ください。八幡公民館集会室では「往時の八幡の町並みを絵で保存する会」による絵を常設展示しています。今後も地域の歴史や文化を発信していくことを願っています。

ここに生きる

千曲市八幡について

千曲市八幡公民館

館長 宮崎 衛

八幡地区は、昨年六月、市が文化庁に申請していた「月の都千曲」



子どものが自慢できる
地域にしよう！

飯田市下久堅公民館

主事 小澤 亮

飯田市下久堅公民館では、ひさかた未来塾という学級講座を実施しています。この講座は、壮年層

が主体的に地域を学び将来を考え、今できること・やりたいことを実践する講座です。

公民館活動の慰労会で「若い人が地域を語る機会がほしい」「もっと面白い公民館活動をしてみたい」といった声からこの講座が始まりました。公民館主事として、未来塾の関わりの中で意識をしていることは、必ず参加者全員で活動の目的を確認することです。講座が始まつた当初は「地域をよくする」という漠然とした目標のもとで活動しており、この活動が何につながるのかという具体感が見えにくく、参加者も私も迷走したことあります。そこで、参加者の未来塾への思いを共有することから会の目標を「子どもが自慢できる地域にしよう!」に定め、参加者一人ひとりが同じ方向を向いて活動することができるようになりました。コロナ禍でも、やるべきことやできることを考え、これまでの



活動から学んだ下久堅の自慢の種を地域へ広める未来塾通信を発刊する新しい活動が生まれました。

地域住民が主体的に学び、活動できる公民館活動を進めていけるようにこれからも参加者と一緒に話し合いながら活動していくたいと思います。

ブロックコース 東信

小諸市公民館が全国公民館報コンクール金賞と優良公民館表彰

を受けられました

佐久市中央公民館
係長 清水高志

このほど、小諸市公民館が「第

八回全国公民館報コンクール」で最高賞の金賞に輝くとともに、文部科学省の「第七十三回優良公民館表彰」も受けられ、ダブル受賞の快挙となりました。誠におめでとうございます。

表彰については、特に事業内容・方法等に工夫をこらし、地域住民の学習活動に大きく貢献している公民館等を表彰するものです。七十三回目となる今回、県内では小諸市公民館のみが選ばれ、オンラインでの表彰式に参加されました。

小諸市公民館のキャラチフレーズは「人々のつながりと主体的活動のお手伝い」です。

具体的な取り組みとしては、小学生対象の講座や親子体験講座を充実させることにより、幅広い年齢層の参加者が増加しています。

また、人々のつながりや主体的な学習を増進するため、複合施設である小諸市文化センターの利点を生かし、外部機関や他団体との



表彰を受けられた小諸市公民館の皆さん



当日はオンラインで表彰式に参加されたそうです

このうち、全国公民館報コンクールの内容は「月刊公民館」三月号に詳しく紹介されておりますのでぜひお読みください。

また、文部科学省の優良公民館

連携を強化し、特色ある講座の充実を図られたとのことです。

加えて住民が、公民館活動に主体的に関われるように組織づくりを工夫するとともに、インターネットを活用した、活動内容の動画配信や、リモートによる講座開催にも取り組まれています。

小諸市公民館では「今後も若年層の増加を目指し、イベントなど中高生が企画運営に参画してもらえるような体制づくりを進めたい」とコメントされています。新型コロナウイルスにより、公民館活動にも様々な影響が出ている中であっても、たゆまぬご努力をされている小諸市公民館の皆さんに、改めてお祝い申し上げます。